

# タクシー規制強化を主張 日本共産党の国会論戦ハイライト

6月9日 衆議院国土交通委員会での日本共産党議員の質問

## 規制緩和、経済危機、新型インフルエンザの三重苦への対策を

日本共産党議員「タクシー業界は、規制緩和、経済危機、新型インフルエンザの三重苦が襲い掛かっている。ある中堅タクシー会社では、修学旅行のキャンセルが76校、7千万円の損失だがキャンセル料ももらえない。緊急の対策が必要だ」

## 世界一タクシー過剰な京都を「特定・特別監視地域」の対象に

日本共産党議員「特定・特別監視地域(全国109の営業区域が指定)から、京都がはずされている。京都は人口157人に一台の世界一タクシー過剰な地域。供給過剰になっている地域をきちんと対象にすべきだ」

## MKタクシーのような違法すれすれの行為を厳しく指導・監督せよ

日本共産党議員「MKタクシーは、売り上げが高くなればなるほど、売り上げにたいする賃金の率が急激に上がる、刺激性の高い累進的な歩合制をとっている。またタクシー事業に必要な経費をすべて運転手に負担させる『事実上の名義貸し』を公然とやっている。いずれもタクシー労働者に長時間労働やスピード違反などのリスクを負わせ、経営者は損をしない法令違反スレスレの行為であり、歯止めのない

タクシーの増車と低賃金を引き起こしている。経営実態に踏み込んだ指導、監督、厳格な法的規制をすべきだ」

これに対し金子国交相は、「厚労省と情報を共有して経営監査などに生かしたい」、また同省の本田勝自動車局長は「賃金システムのあり方について検討しており、必要な改善を図っていききたい」と答弁しました。



日本共産党議員「05年の(タクシー運転手の)平均所得は302万円、年間所得では91年をピークに減少して全産業平均の55%しかない。労働時間は2400時間を越える(全産業労働者と比べて年間240時間も多い)」(07年5月9日、衆議院国土交通委員会)

日本共産党議員「政策の誤りがどれほど多くの方々に被害と苦しみをもたらしたか。結果として安全が損なわれて人の命が失われることが生まれた、労働者が路頭に迷う事態が生まれた、給料が減っている、そういうタクシーの労働者が塗炭の苦しみをなめていることにたいして、市場の失敗という言葉では済まされない」(09年6月9日、衆議院国土交通委員会)

# 「規制緩和」から規制強化へ 共産党と労働者の共同で流れ変えた



タクシーの「規制緩和」の流れを見直す「タクシー規制強化法」が6月19日、国会で全会一致で可決・成立しました。「規制緩和」による過剰競争から、適正な規制によるタクシー労働者の生活の擁護へ、大きな前進です。

## 「規制緩和」がもたらした供給過剰

2000年の「道路運送法改悪」によって、タクシーの新規参入や増車が自由化され、タクシー台数が激増。運転手には、低賃金、安全軽視の長時間労働という犠牲が押し付けられてきました。

「規制緩和」と不況…タクシー業界、タクシー労働者はギリギリのところまで追い込まれています。

## 日本共産党の主張が国会を動かす

もともと「道路運送法改悪」は「規制緩和さえすればタクシー業界がよくなる」と、自民・公明・民主が競い合っただけでした。このとき国会で、タクシーの「規制緩和」がタクシー業界を苦難にさらすと一貫して反対を訴えたのは、日本共産党だけでした。

その後も日本共産党は、国会で規制強化をくりかえし主張。タクシー労働者、関係者の声も高まり、ついに、自民・公明・民主の各党も、規制強化の方向に転換することを余儀なくされたのです。

## タクシー供給過剰と低賃金打開へ 日本共産党は全力をつくします

「タクシー規制強化法」が実効的に機能するかどうかはこれからが大切です。日本共産党は、今回の法成立を第一歩として、タクシーの供給過剰の解消・防止、適正な運賃制度の確立、運転者の賃金・労働条件の改善をすすめるために力を尽くします。

# タクシー規制強化法 国会で全会一致で成立

衆議院選挙の投票方法  
【制度解説】

あなたには2票あります

比例代表は政党名で投票します

候補者名で書くと無効になります

小選挙区は候補者名で投票します

